

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	社会福祉協議会事業			
予算科目	3 款 1 項 1 目			
総合計画での位置付け	福祉の向上と保健・医療の充実～やすらぎとぬくもりのまちづくり～ 福祉施策の向上と充実			
所管課情報	担当課:	福祉課	電話番号(内線):	526
記入者情報	所属長:	渡辺 悦子	担当責任者:	米湊 明弘
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	伊予市社会福祉協議会(社会福祉協議会の運営基盤となる伊予市民)			
根拠法令等	社会福祉法			
事業の目的	福祉課題の解決に取り組み、福祉コミュニティづくりと地域福祉の推進をめざす。			
事業の内容	地域福祉事業・ボランティア・福祉相談・援助事業・各種募金運動・在宅福祉サービスの推進			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	各種事業について、費用対効果の検証を行う。			
改善策の 具体的 取り組み	各種事業について、費用対効果の検証を行う。社会福祉協議会との連絡を密にし、相互に連携して福祉の質の向上を図る。			

事業費及び財源内訳					
項 目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	45,112	47,827	0	46,633
	人件費	244	318	159	318
	合計	0	48,145	159	46,951
人件費 内訳	人工数	0.03	0.04	0.02	0.04
	人件費単価	8,135	7,954	7,954	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	244	318	159	318
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	45,356	48,145	159	46,951

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
補助金交付	円	45112	47827	0	46633

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	42,000	42,000	42,000	0	0	126,000

成果指標				
成果指標	各種事業への参加者数			
指標設定の考え方	各種事業への参加者数にて事業効果を測る。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	12000	12000	0	0
実績	12256	13510	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	市全体の人口減、高齢化率の上昇にもかかわらず、各種事業への参加者数は、増加傾向である。このことは、社会福祉協議会の尽力を物語っていると思われる。高齢・介護・生活福祉資金などの相談事業、介護予防・居宅介護・訪問介護・障害者自立支援・権利擁護など在宅福祉事業に多大な貢献をされており、福祉の最前線で市民からの信頼も厚く活躍している。今後もこうした支援を必要とする人は増えることが考えられる。そのために、継続して支援できる体制を確立していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	ボランティアセンターを核とする社会福祉協議会は、地域福祉を担う人材育成の発掘と養成を目的に、地域に出向き地域住民の交流を大切に活動をしている。また、市からの受託事業は、成果を検証しながら、高齢者・障害者等が安心して暮らせるようにサービスを実施している。各現場において、直接、市民の声や困りごとを聞くことになるので、即座に行政に繋げ必要な支援体制をとることができる。今後も、社会福祉協議会と一体となって、住民課題に取り組む体制を継続いたしたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会による外部評価抽出事業につき、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・成果指標の参加者数という目標の定め方がどのようになっているのか、分かりづらい。・事業の内容を推進するのが目的ではなく、それを実行する社会福祉法人への補助であるので、書き方が適切ではない。・成果を数値化しづらいとあるのだが、4,600万もの経費をかけている関係は、一度検討する余地があると思う。・市から補助を出す以上、報告も受けると思うので、人件費等チェックをし、けん制が効くようお願いしたい。・費用対効果を検証すると書いている以上、指標の設定は難しいところであるが、踏み出すくらいはしてほしい。・社会福祉協議会にはお金を出す方なので、市はいろいろ注文を付けて良いと思う。積極的にやってほしい。・成果指標に関し、もっと人を多く集めたいのなら、目標をきちんと打ち出すべき。こだわらないなら変えた方が良い。・数値化しづらいとあるが、数値化しないと将来の事業計画や努力目標といった具体策は出ないと思う。・運営補助が丸投げ状態という批判を受けないよう、もう少し分かりやすい数値をお示しいただきたい。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>下記の点を見直しの上、継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>繰越金が多いことから、補助金を減額するとともに、事業の多様化を図るよう指導すること。</p>